曇天、くもり空

どんてん生活

山下敦弘監督作品 Hiroshi Yamamoto Teppei Uda in Hazy Life 16mm/Color/Standard/Monoral/84min/1999/Japan

先の見えないぼんやりとした生活を送る二人の若者と、
その周りを流れ漂う人々や出来事を淡々と描いた日常劇。

制作:青山学院ゆーぎ自主シアター 配給:SLOW LEARNER

山下敦弘監督作品

どんてん生活

配給◎スローラーナー　1999年/16mm/カラー/スタンダード/90分
1999年バンクーバー国際映画祭、2000年ロッテルダム国際映画祭、チョンジュ国際映画祭
スウェーデン・ポップコーン映画祭、ブリスベン国際映画祭正式出品作品

脚本◎向井康介＋山下敦弘　撮影◎近藤龍人　制作◎真夜中の子供シアター　出演◎山本浩司＋宇田鉄平＋康季丹＋前田博通＋今枝真紀＋柴田剛

曇天、くもり空。どんてん生活って、どんな生活？
男二人のさえない日常。なが〜いリーゼントで、
仕事もなければ、将来に夢も目標もないけれど、
全然卑屈なんかじゃない。それでも、人生は続いていく。

「じゃあ、プーか。プータローさんだー」「プー、プー」

先の見えないぼんやりとした生活をおくっている青年、町田努の唯一の楽しみはパチンコ。その日の朝も、真冬の冷たい風に吹かれながら、開店前の時間をボーッとやりすごしていた。そこへもうひとり、朝イチに並びに来る男。なんとその頭はガチガチに固めた特大のリーゼント！　男は買ってきた缶コーヒーを努に差し出し言った。

「…学生さん？」　「いえ…違います…」

男の名前、南紀世彦。裏ビデオのダビングで生計を立てている。紀世彦の不思議な存在に驚きながらも、その仕事を手伝いはじめる努。そこで、その周りを流れ漂う人々と出会っていく。何となく社会に出るタイミングを逃し、何となくそれにも気づかないで都合のいい夢ばかり見ている二人。目標もないけど、でも全然卑屈なんかじゃない。これで、結構情けなく生きるのにも根性がいるのだ！

世界で「おもろい」と評価を得た、山下敦弘初監督作品。いよいよ東京上陸！
漂うような、かなしいような、おかしいような日常を描いた作品

『鬼畜大宴会』のスタッフでもあった山下敦弘監督の初長編作品が、いよいよ東京上陸！

山下監督は、大阪芸大入学直後、学生寮で『空の穴』の熊切和嘉監督と出会い、スタッフとして参加。「とにかくどんどん撮ったほうがいいよ」という言葉に動かされ、どんどん作品を発表。『どんてん生活』は、国内だけでなくロッテルダム国際映画祭をはじめ多くの国際映画祭に出品され、まるでアキ・カウリスマキ（リーゼントがレニングラード・カウボーイズみたいだから!?）やジム・ジャームッシュのオフ・ビートなコメディのようだと高い評価を得た。熊切和嘉監督の『鬼畜大宴会』『空の穴』“赤犬”が音楽を担当し、なが〜いリーゼントの南紀世彦を自身も映画を監督する山本浩司、ぼんやりとした生活をおくる青年町田努を、やはり“赤犬”のメンバーでもある宇田鉄平が演じている。そのほか中島らも主宰の劇団リリパットアーミー（撮影当時）の康季丹、『NN-891102』の監督柴田剛、“赤犬”のメンバー、現役小学生が出演。

ノブ（山下敦弘）の落書きをそのまま実写化したようなトボけたキャラクター達の愛くるしさ、絶妙な間で見せる台詞の掛け合い。全編統一された冷たい曇天色の空気感。天然のようで計算し尽くされた作品。笑いの中に物哀しさが漂い、観るほどに味が染み出る。
熊切和嘉　映画監督

山本浩司と宇田鉄平がみつめ合い、ことばもなくほほえんでしまうだけで、うれしくなってしまう。
市川準　映画監督

始まると同時に終わっている映画だ。特異な文体で描かれている。
中島らも　作家

青空と、なが〜いリーゼントがとても印象的でした。そして、すごく好きでした。登場人物達も皆それぞれ魅力的でおもしろかったですし、足もとだけのカットとか公園のシーン、そしてとても寒そうな感じが私にはすごく心地よかったです。はじまり5分でもう「あついなぁ…」と思ってどんどん引き込まれてしまいました。素敵な作品です。
麻生久美子　女優

まさに男の生活、世界。今の若い世代の心理状態。それは人と関係したい、したくない矛盾。リアルな日常だと思いました。そして、出演者達のレトロな雰囲気素敵です。
三輪ひとみ　女優

2002年1/26(土)〜2/8(金)　連日レイトショーPM 9:05〜
前売¥1300　当日一般¥1500

テアトル梅田
梅田ロフトB1
06-6359-1080
★日曜日は休映